

## 治療効果判定ツールの再検査信頼性と結果フィードバックの効果に関する研究」

研究分担者 神村 栄一 新潟大学人文社会科学系・教授

研究要旨 令和 3 年度は、ギャンブル障害の症状を測定する 2 つの尺度の再検査信頼性の検討 (研究 1)、及び Personalized Normative Feedback (PNF) の有効性についての検討 (研究 2) について、それぞれ結果の解析と論文執筆をすすめた。並行して、2,000 名のギャンブラーを対象にオンライン調査を実施しサブタイプに分けての比較調査を実施した。その結果、6 つのサブタイプ (problem gamblers (235 名)、at-risk & relationships problem gamblers (116 名)、non-problem gamblers (1,206 名)、at-risk & occupational problem gamblers (82 名)、low risk gamblers (246 名)、engaged gamblers (115 名)) に分類可能であることが示された。

### A. 研究目的

令和 3 年度は、研究 1 で再検査信頼性が確認された Gambling Symptoms Assessment Scale(GSAS)、及び Gambling Related Cognitions Scale(GRCS)を用いて、ギャンブル障害における治療ギャップの背景を明らかにすることであった。2,000 名のギャンブラーを対象にオンライン調査を実施した。

### B. 研究方法

インターネット上で研究参加者を募集した。研究期間は 2022 年 2 月であった。研究の実施に先だてて川崎医療福祉大学の承認を得た。また、研究目的、手続き、包含基準等は UMIN 臨床試験登録システム (UMIN000046866) に登録された。

20 歳以上で、過去 1 年間に少なくとも 1 カ月に 1 回ギャンブルをしている者 2,000 名 (男性 1,809 名、女性 191 名、平均年齢=51.57 歳) を分析対象とした。参加者のギャンブルをした日数は平均 7.79 日/月、ギャンブルに費やされた金額は平均 50,363 円/月であった。

### C. 研究結果

ギャンブル症状を測定する Problem Gambling Severity Index、及びギャンブルが原因で生起する様々な悪影響への回答をもちいて、潜在クラス分析を実施した。その結果、5 つのサブタイプに分類できることが示された。まず、多くのギャンブラーが non-problem gamblers class であることが示された (1,206 名 : 60.3%)。症状を有し生活への様々な悪影響が出ている problem gamblers class は、235 名 (11.80%) であった。いくつかの項目には該当するものの日常生活への悪影響が少ない engaged gamblers class は、115 名 (5.8%) であった。このほか、problem gamblers と比較して項目への該当が少ないものの特定の領域への悪影響が示されている at-risk & relationships problem gamblers class が 116 名 (5.8%)、at-risk

& occupational problem gamblers が 82 名 (4.1%)、項目への該当も少なく、日常生活への悪影響も少ない low risk gamblers class が 246 名 (12.3%) であった。

#### D. 考察

ギャンブラーの中でも、症状を有し生活への様々な悪影響が出ている problem gamblers class と engaged gamblers class や low-risk gamblers class が存在することが明らかになったことから、臨床心理学的な問題に直面していないギャンブラーのサブタイプの特徴を把握、及び problem gamblers class との比較によって、今後ギャンブルとのうまい付き合い方に関する知見を得ることができると言える。

#### E. 結論

ギャンブラーには 6 つのサブタイプが存在する。